

中濃圏域 各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
					① 病床 機能	② 病床 数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
1	医療法人香徳会 関中央病院	関市	【現状、特徴】 地域包括ケア病床50床、回復期リハ病床50床(うち16床は コロナ対応病床に転用中)、療養型病床50床で運用中。地域 包括ケア病床は地域からの直接入院が、また回復期、療 養型は地域の急性期病院からの紹介入院が主であり、いず れも高水準の稼働率を維持している。 【課題】 医師の働き方改革に伴う夜間休日の救急診療体制の見直 し 常勤医の確保 特にリハビリテーション専門医	地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関として、要介 護状態高齢者の様々な医療ニーズに対応する。具体的 には高度医療を要さない急性病態の診療、要介護状態を改善 するリハビリテーションをさらに充実する。今後は病院から 地域へのアウトリーチとして特に在宅医療分野に注力する 予定。						○	①病床機能はすでに見直しを行っている ②上記に記載あるように稼働率が良 好である ③地域包括ケアシステムの中核を担 う医療機関として今後も維持継続す る ④現状と同様に地域との連携を図る 以上のことより、現状維持とする
2	岐阜県厚生農業 協同組合連合会 中濃厚生病院	関市	【現状、特徴】 救急救命センターを併設し、へき地医療拠点病院、感染症 指定医療機関、地域がん診療連携拠点病院、地域災害拠 点病院等の指定を受け、地域の基幹病院として医療を提供 している。 【課題】 急性期の治療を終え、在宅復帰に向けリハビリ等を行う回 復期病床の不足により退院調整が難航している。 また、医師不足により十分な医療提供ができていない診療 科もあり、今後は医師の働き方改革による影響も懸念され る。	地域の救急医療を担う上で、急性期を中心とした医療を継 続するとともに、当圏域内で不足している回復期リハビリ テーション病床の設置について検討する。今後の人口動態 や受療動向を踏まえ、経営面を含めた適正な病床機能の在 り方及び病床数を検討し、地域にとって最良な医療提供体 制を構築する。	○		実施 済み				①地域包括ケア病床から当圏域内で 不足する回復期リハビリテーション病 床への転換を計画中 ③ ・平成30年4月に「歯科・口腔外科」を 開設した。 ・がん診療の中心となるべく、施設設備等の整備を行い、令和2 年3月に「地域がん診療連携拠点病 院」の指定を受け、がん医療の充実 に取組んでいる。
3	美濃市立美濃病 院	美濃市	【現状、特徴】 高齢者を中心とした急性期及び回復期(一部慢性期まで) の機能を有し運用しています 200床以下の在宅医療支援 病院として地域の在宅医療の支援を併設する訪問看護セン ターにより行っています 【課題】 医師不足(常勤)、看護師ほか医療スタッフの確保 当直体制の維持	併設する健康管理センターにより地域の健診体制の強化 をすすめることも含め、現在の方針に基づき地域密着型の 地域包括ケアシステム支援病院としての機能を充実させる				○			果たすべき役割を将来的に継続的 に地域に提供するために、医療スタッ プの安定確保が最大の課題であり、 公立病院経営強化ガイドラインが示 す他施設との医師をはじめとする医 療スタッフの派遣連携体制を構築す ることを希望している
4	太田病院	美濃加茂市	【現状、特徴】 地域住民が安心して日々生活ができるように、地域に必要 とされる医療を提供する。 【課題】 常勤医師が中心メンバーが50歳を超えてきたこと。	急性期、回復期、慢性期と病床数は30床くらいずつで管 理・運営は非常に大変だけど、地域住民からは本当に必要 とされている。						○	本当に医療機能を集約して効率化す ることだけが地域住民の医療福祉の 向上になるのでしょうか？
5	中部国際医療セン ター	美濃加茂市	【現状、特徴】 2022年1月に中部国際医療センターとして開院しました。高度 急性期および急性期医療が中心で、24時間365日の救 急医療やがん医療、高度先進医療を実践している。 【課題】 救急患者数の増加により、病床確保が困難な時がある。そ のため急性期医療の病床確保の必要性が高くなっている。	高度な医療を要する救急患者の受入れ、他の医療機関で の受入れ困難な患者の搬入など、救命救急医療体制の充 実に合わせた整備が必要である。2023年の夏以降に「陽子 線がん治療センター」を設置し陽子線治療を開始する。癌の 早期発見から薬物療法、手術、がんゲノム診断による医療 を含めがんセンター病院としての機能を担う。	○						救急患者数ならびに紹介患者数の増 加等により、急性期医療の需要が増 している。地域ニーズに応じる為 に、回復期病床2病棟の内1病棟(46床) を急性期病床へ変更見直しが必要。

NO	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
					① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
6	中部脳リハビリテーション病院	美濃加茂市	<p>【現状、特徴】 令和4年1月1日、木沢記念病院の病院名変更を行い「中部脳リハビリテーション病院」として開院。病床数は150床に変更(コロナ療養施設として県へ病棟を賃貸しているため100床は休床)。脳神経外科を中心とした回復期医療を主とした病院として運用。</p> <p>【課題】 現在はNASVA(独立行政法人 自動車事故対策機構)より運営委託されている自動車事故被害者の慢性期入院設備(50床)のみを運営。それ以外の機能は休床中。認知症ケアを含めた地域の脳疾患の回復期医療に今後注力したい。</p>	急性期を経過した脳血管疾患等の患者に対し、ADL向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する。						○	系列病院の「中部国際医療センター」との機能分化、地域に不足している病床機能として回復期機能の分野を担うため
7	医療法人社団耀和会 濃成病院	可児市		未回答							
8	独立行政法人地域医療機能推進機構 可児とうのう病院	可児市	<p>【現状、特徴】 令和3年度 急性期病床利用率 79.8% 地域包括病床利用率63.7% 令和2年度に250床から190床へダウンサイジングし、看護体制についても7対1から10対1に変更しており、病院機能は急性期から回復期へ既に移行しつつあるが可児市、地域住民からの要求を踏まえ、現体制(急性期病床102床・地域包括52床)を維持する必要がある事を令和3年度の病床利用率が示している。</p> <p>【課題】 医師・看護師の確保。</p>	可児市及び地域住民からの要求を踏まえ、現体制を保ち急性期と回復期の両方を担う役割がある。	実施済み	実施済み					令和3年2月までに段階的に、ハイケアユニット病床6床と一般急性期病床54床の合計60床を返還し、許可病床を250床から190床とした。
9	医療法人社団慶桜会 東可児病院	可児市	<p>【現状、特徴】 脳神経外科を核に整形外科、循環器内科、消化器内科、一般内科、外科、眼科、透析の一般外来診察・入院(軽症コロナ感染症患者受け入れ含む)とともに可児市、御高町を中心とした第2次救急医療を担っている。</p> <p>【課題】 医師不足、看護師不足による休床89床(一般病床29床、療養病床60床)の早急な稼働。</p>	第2次救急指定病院として救急医療(急性期機能)を担うとともに高齢化率が増大する(可児市2025年30.0%超)ことによる慢性期機能(療養病床の稼働)の拡充を図る。また、地域の医療機関(開業医)との連携で地域包括ケア病床の活用、当院の医療機器(CT、MRI)の共同利用で地域医療に貢献する。	○						機能別病床数 急性期病床 128床 慢性期病床 60床
10	医療法人 馨仁会 藤掛病院	可児市	<p>【現状、特徴】 一般病棟 地域一般入院基本料1 57床 内、地域包括ケア管理料2 9床 病院内 介護医療院 入所定員50名</p> <p>【課題】 病院内で急性期治療・回復期・慢性期対応が出来るように体制を整えては来たが、2025年に向けて、地域の診療所・病院、介護施設等とさらなる連携が必要である。</p>	病院機能は現状で維持しつつ、在宅医療(訪問診療・訪問看護)に力を注げるよう検討。						○	現在、一般病棟にて急性期・回復期の病床機能を有し、病院内介護医療院にて慢性期に対応。訪問診療・訪問看護も既に実施しており、現在の機能を維持または高めていく事が今後の課題と考える為。

NO	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
					① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
11	県北西部地域医療センター国保白鳥病院	郡上市	<p>【現状、特徴】 実績(R3年度):届出区分 46床 地域包括ケア病棟入院料1 平均在院日数19.8日、病床稼働率73.2% 特徴:4機能のうち在宅復帰、在宅支援の回復期機能に取り組んでいる。 他機関との連携:郡上市、白川村、高山市荘川町からなる県北西部地域の地域医療を支えるため、基礎自治体の枠組みを越えて各医療機関が広域的なネットワークを構築し医療の相互支援による取り組みを行っている。 【課題】 ・地域の医療需要の減少が見込まれるため、県北西部地域の安定的医療供給を目指して医療連携の更なる基盤強化を図る必要がある。</p>	地域の現状を考慮し、ポストアキュート、サブアキュートを支え在宅へのつなぎ、あるいは在宅支援のための入院機能を持ちながら、外来・在宅を中心とした医療を展開し、保健介護との連携も継続しながら、市民の広義の健康づくりを支援していく。また県北西部地域のへき地医療を安定的に支えるため、その基盤強化と連携の充実を図る。	実施済み	実施済み		実施済み			<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年4月1日より一般病床60床、結核病床4床の合計64床から一般病床46床に見直しを行い、その46床すべてを地域包括ケア病床とした。 ・令和元年12月19日に郡上市、高山市、白川村を医療連携推進区域とした一般社団法人県北西部地域医療ネットを設立し、R2年4月1日に岐阜県知事により地域医療連携推進法人の認定を受け、地域医療連携推進法人県北西部地域医療ネットとして活動を開始。
12	郡上市民病院	郡上市	<p>【現状、特徴】 ・広大な中山間地を有し、30キロ圏内に三次救急病院がない郡上地域において、中心的な役割を担う医療機関として救急医療や急性期、慢性期病床機能に対応している。 ・地域で唯一の分娩取扱施設である。 【課題】 ・人口減少、高齢化等により変化する医療需要に対応するため、病床機能の一部を回復期病棟へ転換することを検討しているが、施設基準を満たす人材確保が出来ていない。 ・独居老人、老々介護の問題が深刻化する中、在宅に向けた介護施設が不足しており、退院後の療養体制が十分でない。 ・経常収支比率が100%を大きく下回っており、経営基盤が脆弱である。</p>	患者さんが安心して療養生活を送れるよう、病診、病病連携、医療福祉(訪問介護、介護施設)との連携強化を図り、診療、入転院、救急対応を担う。	○			○			<ul style="list-style-type: none"> ・設置主体が同じ国保白鳥病院と病院間の役割の明確化及び病院機能の統合・集約などについて協議している。 ・ICTを活用し市内公立医療機関において患者情報・診療情報の共有を図っている。 ・医療需要の変化や医療圏における医療供給体制の変化に対応するため、病床機能の一部を回復期病棟へ転換することを検討している。
13	社会医療法人白鳳会 鷺見病院	郡上市	<p>【現状、特徴】 郡上市人口3万9千人、65歳以上が40%と高齢化比率の高い地域である。南北に面積が広く南部は郡上市民・八幡病院、北部は鷺見病院・白鳥病院とぼんやりとすみ分けができていた。当院は北部の急性期医療を担うと同時に地域医療に求められる、回復期(包括病床)慢性期病床も運用している。 【課題】 郡上市は広大な面積であり現状のように急性期医療は南部と北部で分けるのが妥当と考える。しかしながら北部地域において今後の人口減少を鑑みると急性期、回復期、慢性期、在宅医療については踏み込んだ議論が必要である。以前から言われている地域医療構想にある病院間での会議、検討については一度も開催していない。</p>	郡上市においては2020年より高齢化地域となっており2025年に現状から大きく65歳以上が増える事もなく、現状の疾患、患者数と予測している。当院としては、地域に見合った急性期、回復期、慢性期医療と僻地医療についても近隣病院、クリニックとの協力の下行っていきたい。	○	○		○			<ul style="list-style-type: none"> ① 近隣病院との調整が必要 ② 急性期病床数の見直し(現状は4階病棟をコロナ病床として使用) ④ 近隣病院との連携、役割分担が必要

NO	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
					① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
14	医療法人 新生会 八幡病院	郡上市	【現状、特徴】 人口減少、医療ニーズの変化などにより患者数が減少しており、厳しい経営を強いられている。消化器内科が強みであり、郡上市全域から集患している。リハビリニーズには積極的に応じていきたい。 【課題】 病床稼働率の低下、外来患者の減少、職員の高齢化(人材育成確保)、設備の老朽化、療養病床のあり方、地域包括ケアへの取組、経営基盤の強化(収支の改善)	病床機能再編、地域医療機関との機能分担・連携などにより、地域の医療ニーズに合わせた医療提供を目指す。ニーズの低い部門を縮小し、運営の効率化を図る。	○	○		○			①慢性期の病床は経過措置期間内に転換方針を検討する必要がある、地域医療ニーズは減少しているので、段階的に縮小する ②2022年内に療養病床7床と一般病床4床を削減予定 ④療養病床を大幅削減した場合は、郡上市民病院や鷺見病院に療養病床患者を転院依頼予定
15	伊佐治病院	八百津町	【現状、特徴】 医療依存度が高く長期的な療養が必要となる患者様に対して、入院期間の制限がない病床として地域での役割を担っている。 【課題】 介護施設では対応できない医療依存度の高い患者様を受け入れる施設が少ない一方で、八百津町においては生産年齢人口の減少よりスタッフの確保が困難になっている。	引き続き、介護施設や在宅での療養が困難な患者様に対して入院期間の制限がない病床として地域での役割を担っていく。						○	地域の医療機関さまと協力し役割分担を行っている。 そのなかで医療法人大治会においては療養病床や有床診療所、介護施設等必要なサービスを提供している。 今後も病床のある医療法人として、地域において必要な事業を継続する。
16	医療法人 白水会 白川病院	白川町	【現状、特徴】 白川町、東白川村など近隣の唯一の病院であることで、地域医療と救急医療を担っている。そのため総合科を中心に歯科、眼科を維持している。 【課題】 1. 地域急性期病院の充実(①医師確保 ②整形外科・眼科の常勤化) 2. 療養病床の維持 3. 地域救急医療の継続	白川町、東白川村唯一の病院であり、地域医療、救急を担う						○	今まで同様、近隣の唯一の病院であることで、地域医療と救急医療を担う。
17	桃井病院	御嵩町	【現状、特徴】 人口2万人の可児郡に唯一の病院として在宅・介護・入院・救急の分野を担うこと、県立多治見病院や中部国際医療センターなどの地域医療に欠かせない機関との連携を深めて3次救急のベット確保に当院への転院受入れを積極的に実施。 【課題】 看護、介護職員の確保に苦慮。特に介護職についてはコロナによるイメージで病院での就職を避ける傾向にある(ハローワーク談)。 病院機能は今後も変わることはないので人員確保が課題。	病院での看取りには限界があり特に療養病床は特養と同じで死亡退院でベッドが空かない限り新規受け入れは困難。いかに入院患者を在宅へシフトしていくか・・・を踏まえると在宅サービスの更なる充実が求められる。						○	当地のニーズを考察するにやはり自宅へ戻る選択ができない家庭環境(家族構成、住宅構造、金銭面など)が多いのは現実である。その中でできるだけたくさんの方の医療介護サービスを選択できる選択肢を用意できている現時点においては理想的な環境にある。
18	せきレディースクリニック	関市	【現状、特徴】 1次施設としての産科・婦人科診療 【課題】 特になし	1次施設としての産科・婦人科診療						○	今後の医療ニーズを踏まえて、現在の医療機能の維持が必要
19	佐藤歯科医院	美濃加茂市	【現状、特徴】 専門歯科医療を担って診療所の役割を補完する機能をもつ 【課題】 現状以上に急性期の患者に対して、状態の早期安定化に向けて、歯科医療を提供する必要がある	急性期患者に対し、これまで以上に質の向上をさせ、安全で安心な歯科医療を提供することを目標とする						○	歯科医療における急性期病床はほとんどないため、必要な病床を確保する必要がある。

NO	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し							
					① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容	
20	いど眼科	美濃加茂市	【現状、特徴】 白内障手術患者を日帰り入院させている。 【課題】 短期滞在手術等基本料1の施設基準の見直しに伴い、入院ベッドをなくすか検討する。	無床診療所に変更をする予定。		○						無床診療所に変更。
21	岩永耳鼻咽喉科	美濃加茂市		未回答								
22	渡辺医院	美濃加茂市	【現状、特徴】 現在、入院治療はなく、外来診療のみです。静脈麻酔にて婦人科処置後の安静・休養のため、病床を確保しています。母体保護法の基準病床を満たす必要もあります 【課題】 流産手術後、子宮内膜全面搔搔術後の病床数は、スタッフ不足で増やせません	産科もなく、処置数が増やせないこともあり、縮小を検討中です						○		今後の処置数が、増加しないと予測されるため
23	ふかがや眼科	美濃加茂市	【現状、特徴】 入院施設を要する眼科医院は近隣では皆無であり、交通弱者、僻地、独居など入院手術を希望する患者に対し、一定のニーズがある。 【課題】 入院可能な病院との棲み分け	現在と同様、入院希望の患者に対応する。							○	全身疾患を有さない患者、あっても軽症で内科的な疾患を近隣のかかりつけ医で管理中の患者は、入院手術を希望する場合であっても、近隣の中核病院での手術をきらう傾向がある。待ち時間や、病院ならではの小回りの利かたさがネックとなっていると考えられる。そのような患者に対し、従来通りの医療を提供したい。
24	ローズベルクリニック	可児市	【現状、特徴】 当院では、周産期医療のプロフェッショナルとして、すべての社員が協力し合い、すべての患者様に対して最新の知識、最大の安全性、最善の倫理観をもって、常に優しく誠実に診療にあたり、社会に広く信頼され、人々の健康と幸せに大きく貢献ができる様、真摯に研鑽と努力を続けてきました。 ◆診療実績 月平均分娩数＝60.0件（2022年1月～6月実績） 【課題】 特になし	分娩を継続していき、地域の周産期医療を支えています。							○	周産期医療機関であり、特段見直しを必要としないため。
25	にしむら眼科	可児市		未回答								
26	とまつレディースクリニック	可児市	【現状、特徴】 産科を中心に、幅広い年齢層の患者様が来院されております。優しく・明るく・快適なクリニックを開業当初から意識し、アットホームな温かい雰囲気でお客様を迎え、患者様の立場に立った診療をする。 【課題】 急激な分娩数の減少に対してどう対応するか。	少子化対策に協力し、少しでも地域社会に貢献する。今後も助産師の育成に協力する。						○		④総合病院との連携をより強固のものにしていくため、定期的に連絡会議等行う。母体合併症等リスクのある方や新生児治療が必要な場合は対応可能な総合病院に依頼する先生と相談し紹介することによりおります。
27	大和医院	郡上市		未回答								

NO	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
					① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
28	県北西部地域医療センター国保和良診療所	郡上市	【現状、特徴】 県北西部地域医療センターの枠組みの中で、地域住民の医療、福祉、健康を守る、へき地診療所として、持続可能な地域医療の提供に取り組んでいる。 【課題】 ・患者数の減少による診療収入等の減少が続いている。 ・医療従事者の確保が難しくなっている。	医療や介護を必要とする高齢者の増加が見込まれることから、身近なかかりつけ医療機関として、また在宅診療を提供する医療機関として、地域住民の健康を総合的に支援する。			実施 済み	実施 済み			③整形外科の廃止(令和2年4月) ④地域医療連携推進法人の設立(令和2年4月)
29	かわべ眼科	川辺町		未回答							
30	医療法人社団 麟生会 田原医院	川辺町	【現状、特徴】 高齢者の終末医療中心 【課題】 看護師の確保	現状を続ける予定						○	他病床への変換は不可能 人的確保が問題
31	粕谷医院	八百津町		未回答							
32	伊佐治医院	八百津町	【現状、特徴】 肛門科の手術の患者に加えて、地域の患者様や在宅医療の患者の急変時に入院等で対応している。 【課題】 高年齢層が増えていく中で、介護施設との連携も取りながら、急性期や回復期を脱した後の患者の在宅医療への橋渡し	現状の課題達成のために継続取り組みを行う						○	今後も肛門科と、地域の患者様や在宅医療の患者の急変時に対応していくため
33	御嵩クリニック	御嵩町	【現状、特徴】 在宅や施設から二次救急病院へ入院後もとの所に帰れない患者の受け皿としての機能が当院の存在意義であります。 【課題】 特になし。	現在と同じです。						○	現状の存在意義に変更はない。
34	今井内科	可児市	【現状、特徴】 (現状)地域における日常診療 (特徴)呼吸器・内分泌科業務に強いこと。 【課題】 職員が高齢化する中、現状を維持すること。	患者ニーズを把握し、可能な範囲でそれに対応してゆきたい。						○	現状で地域医療のニーズに沿っていると思うから。